

第 15 回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和 6 年 7 月 5 日 (金) 午後 3 時 30 分～午後 5 時

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、曽根、三浦

そ の 他 市長、企画課長、学校教育課主任指導主事

議事録作成者 企画課 内田

○委員長

私どもの提言したことは、学校現場で少しずつ浸透してきていると感じます。
今年 1 年で更に進め、子どもたちが幸せになるゴールに近づけば良いと思います。

1. 議題

(1) 雁宿小学校の授業見学の意見交換

～6 年生の算数における自由進度学習の取組～

○委員

一人ひとりの進度がずいぶん違い、個別で進める児童、グループで進めている児童、まちまちでした。担任教員が順番に見ていくのですが、進捗が遅れている児童に声掛けするまで、時間を要するケースが見受けられました。親の立場で考えた時に、学校の教育でどこまでフォローすべきかを考えさせられました。複数の児童を指導しなければならない点において、進捗が遅れている児童だけを見るわけにもいきませんので、教員の大変さを感じました。6 年生の算数がつまずくと、中学校の数学を理解することは難しいと思いますので、今後、どのようにフォローしていくのか気になりました。

○委員

進捗が遅れている児童は、ちょっとした指導で理解ができたようでしたので、授業形式による一人の担任が複数児童を教える形式ではなく、1対1の場面で直接教えてもらう機会があることは良いことであると思います。今回の授業でも複数の指導する方がいましたが、十分であるとは言えないと思いました。この授業形態が一般化するならば、進度の早い児童がもっと、進度の遅い児童を教えることが進ん

でいく可能性があるのかなと思いました。

○委員

伴走型の授業を始めてみました。算数は積み重ねですので、児童の差がつきやすい科目です。個々で目標を設定し、積み重ねができる授業形態の良さがあり、一斉授業よりは、個々の理解が進むと思います。ただし、すべての児童を十分に見ることはできないと思いますので、教員は大変だと思います。進捗が遅れ始めた時に家庭も含めフォローできると良いと思います。

○委員長

東浦町が先行している授業の形態なのですか。また、半田市の取組を教えてください。

○学校教育課主任指導主事

東浦町では「自由進度学習」という言葉がなかった数十年前から小学校で、「週間プログラムによる学習(週プロ)」と呼ぶ、自由進度学習と同じような取組が行われています。全国的には個別最適化学習を進めるものとして、画一的な一斉授業と組み合わせる自由進度学習が広がってきています。また、個々の理解度に応じた問題を準備する必要がありましたが、個々の児童の進捗に応じた問題が出題できる GIGA スクール構想とも相性が良いです。

半田市では「Qubena」というデジタルドリルを導入し、AI による理解に応じた出題、個々の児童の進捗管理することで教員のフォローができるようになっていきます。

○委員

進度が早い児童にとっても、待ち時間が多かった従来の授業に比べ、プラスに働いていると思います。進度の遅い児童への対応が重要になってくると思います。

○学校教育課主任指導主事

学校では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をすすめています。このうち「個別最適な

学び」には、子どもの個性に応じた指導が必要です。例としては、視覚優位と音声優位という人の個性があります。視覚優位の子どもには文字で、音声優位の方には音読で教える方が学習効果を高める傾向にあります。個々の特性に応じた適切な指導を行うことでも、子どもの理解が高められると考えています。

○委員

算数という科目で児童の主体的な授業がどのように進められるのかについて、関心を持って参加しました。進度を各自で決めて進められることは、なるほどと思いますが、覚えることが前提にあるため、算数では児童の主体的な授業は非常に難しいと思いました。私どもの幸せになるための教育は、自らが主体的に考えることが重要ですので、取組やすい授業、例えば道徳から始めた方が良いのではないかと感じました。

タブレットの活用について児童に好きか嫌いかを聞いてみましたが、意見が分かれます。好き嫌いがあるのは当たり前です。タブレットであれ、算数であれ、学ぶことが本当に人生において必要かを考えることも教育においては大切であると思います。児童一人ひとりの苦手を解消するツールとしてタブレットは有効だと思いました。

授業は変化が感じられましたので、良い傾向であると思いました。試行錯誤しながら続け、改善していくことが重要です。

(2)板書の写真データ等の蓄積について

○学校教育課主任指導主事から、板書の写真を見ながら蓄積データの紹介

集まっているデータは、別の教員もこのフォルダ内を自由に見ることができ、参考にすることができますが、探すのに時間がかかってしまいますので、改善の余地があると考えています。また、授業の評価として活用してはいけませんので、授業の切り口として面白い取組が紹介できれば良いと思います。

○委員

取組は評価できます。教員がこれらのデータを確認する中で、人生において大切だが、教育として「抜けていること」を探す視点を持つともっと良いのではないで

しょうか。

○委員長

今まさに教育の過渡期にあると感じます。いろいろな教員の価値観を確認しながら、試行錯誤して進めていただけると良いと思います。

○委員

中学生の最大の問題は「しらけ」だと思います。生徒がしらけることがないように進めてください。しらける生徒もおそらく、考えています。上手にその考えを拾い上げことを教員に期待しています。

○委員

これらの取組は何回も繰り返し行っていくことで、子どもも教員も考え、改善していくと思います。また、授業は、言いたいことが言える雰囲気を進めることがとても大切で、続けてほしいと思います。

○委員

この会議での議論が少しずつ授業に浸透してきていることがわかりました。今後、この会議としてどう取り組んでいくことが良いか考えさせられます。

○委員長

この会議で正解や成果を示すことは非常に難しいと思いますが、学校現場の変化は感じられます。子どもたちの幸せの実現に近づくと良いです。

<終了>